

# 2021年11月期 決算補足説明資料

---

ティアンドエス株式会社

(東証マザーズ 4055)

2022.1.13



T & S

Technology & Service

## 2021年11月期 通期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの増員状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
通期業績予想	p. 14
株主還元	p. 16

( 今期のテーマ )

## 証明への第一歩

### 1 過去最高収益を達成

売上高	: 27億32百万円	(20.5%増↑、増加額: 4億65百万円)	(前期比)
営業利益	: 4億12百万円	(35.6%増↑、増加額: 1億8百万円)	(同)
経常利益	: 4億19百万円	(37.7%増↑、増加額: 1億14百万円)	(同)
当期純利益	: 2億94百万円	(24.7%増↑、増加額: 58百万円)	(同)

### 2 半導体とAIが牽引。従業員への業績連動賞与を引当計上

- 全カテゴリーで大幅伸長。
- 特に先進技術ソリューションカテゴリーが大幅躍進。(売上高**61%増**)
- 営業利益の一部を従業員に還元。通常賞与の上乗せ分として、**60百万円を引当計上**。これによる営業費用増を吸収し、前期比1億8百万円の営業利益増。

### 3 来期も好調を継続。過去最高収益更新の見通し

売上高	: 31億円(前年実績比 <b>13.4%増</b> ↑、増加額: 3億67百万円)
経常利益	: 5億57百万円(前年実績比 <b>32.9%増</b> ↑、増加額: 1億38百万円)

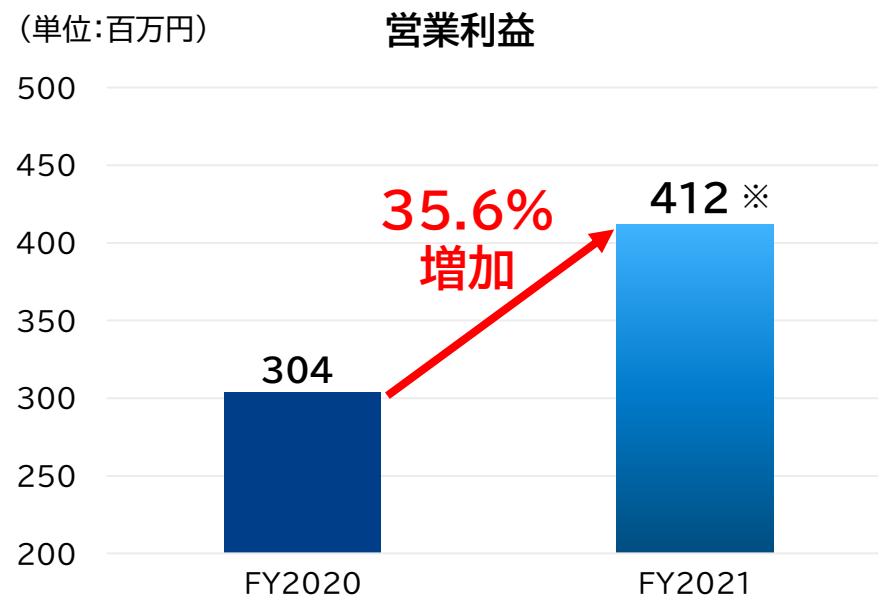
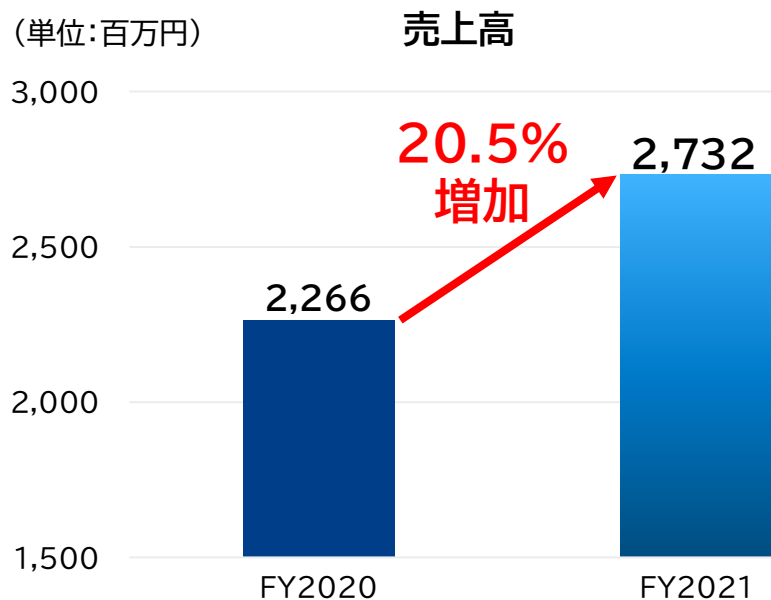
# 決算概要

---

2021年11月期 通期

## 過去最高収益を達成

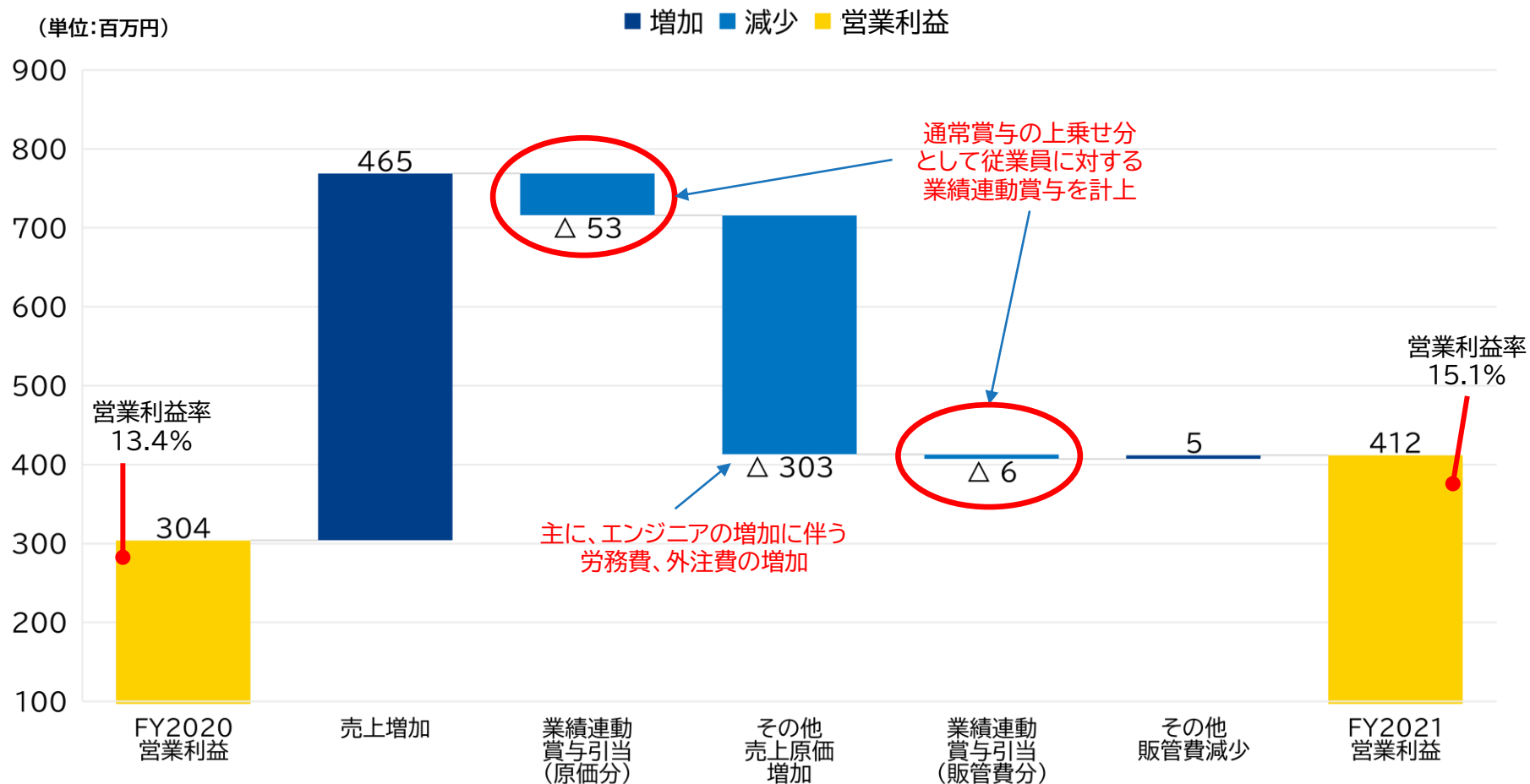
売上高	: 27億32百万円	(20.5%増↑ 増加額: 4億65百万円)	(前期比)
営業利益	: 4億12百万円	(35.6%増↑ 増加額: 1億8百万円)	(同)
経常利益	: 4億19百万円	(37.7%増↑ 増加額: 1億14百万円)	(同)
当期純利益	: 2億94百万円	(24.7%増↑ 増加額: 58百万円)	(同)



※好業績に鑑み、従業員向けの業績連動賞与を60百万円計上しています。

# 営業利益の状況( FY2021 )

業績連動賞与を吸収し、1億8百万円の**営業利益増**  
(前期比)

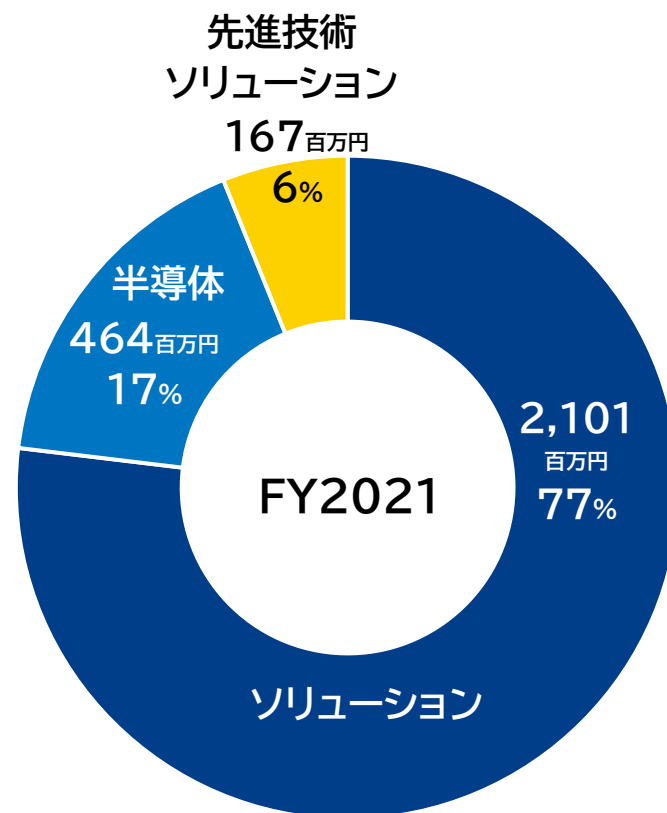
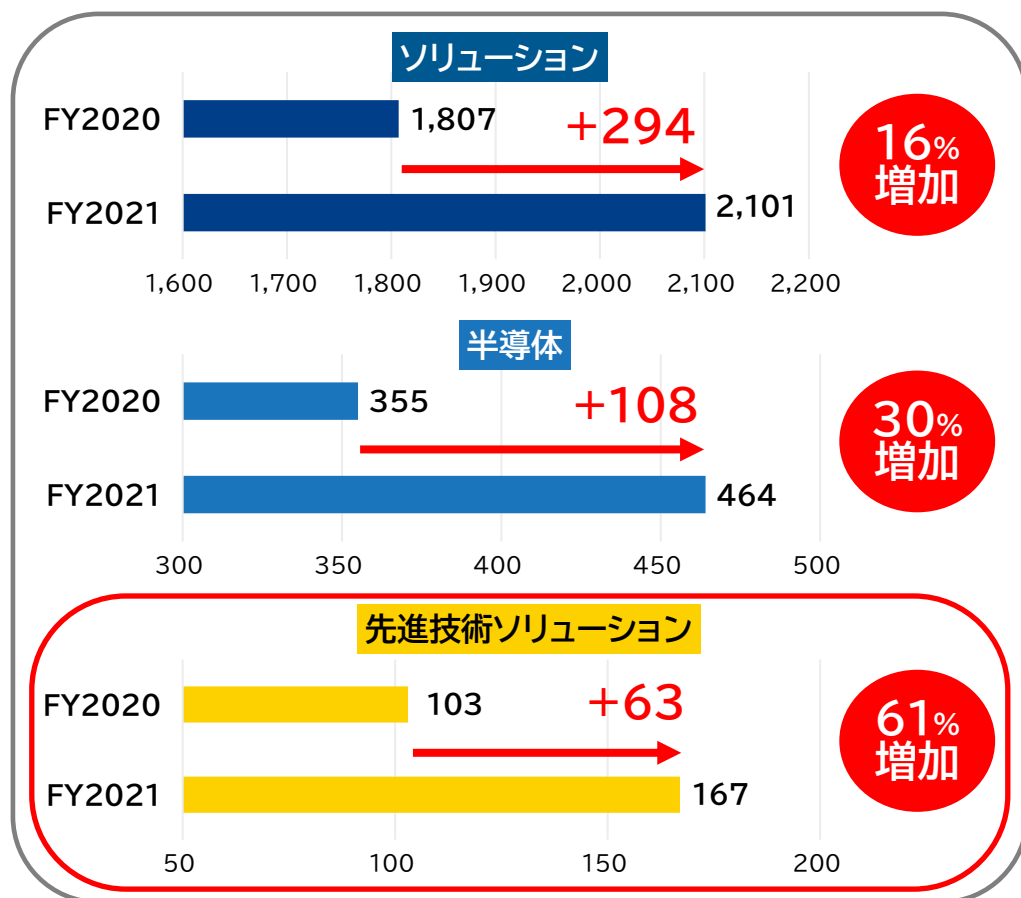


# カテゴリ別売上高 (FY2021)

全てのカテゴリにおいて増収  
先進技術ソリューションは**61%増加**  
(前期比)

売上高(カテゴリ別) (単位:百万円)

売上比率(カテゴリ別)



(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリ別に集計しております。

# 取引先別売上高( FY2021 )

東芝G、日立G、キオクシアG

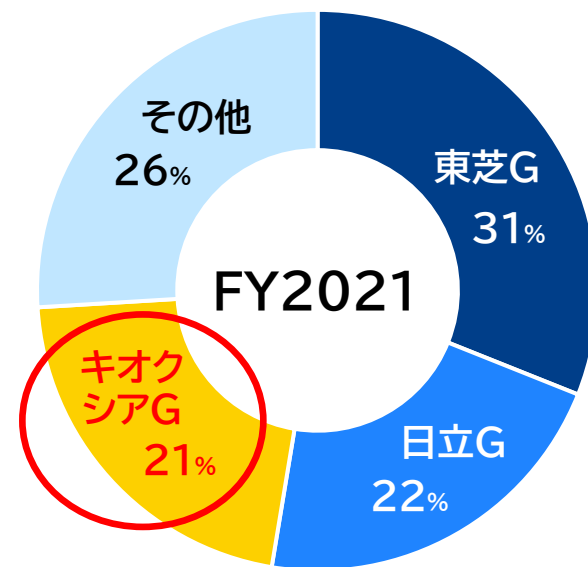
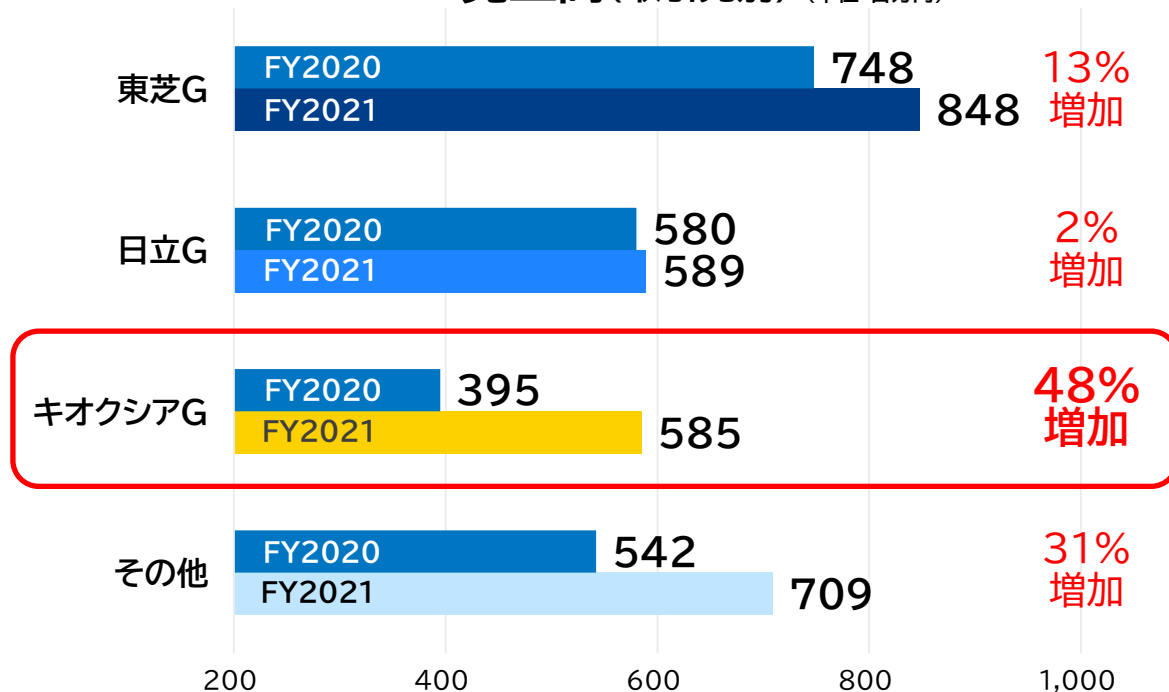
主要取引先は安定して推移  
キオクシアGの増加が著しい  
(48%増加(前期比) 構成比21%)

その他

新規取引先が増加  
(31%増加(前期比) 構成比26%)

売上高(取引先別) (単位:百万円)

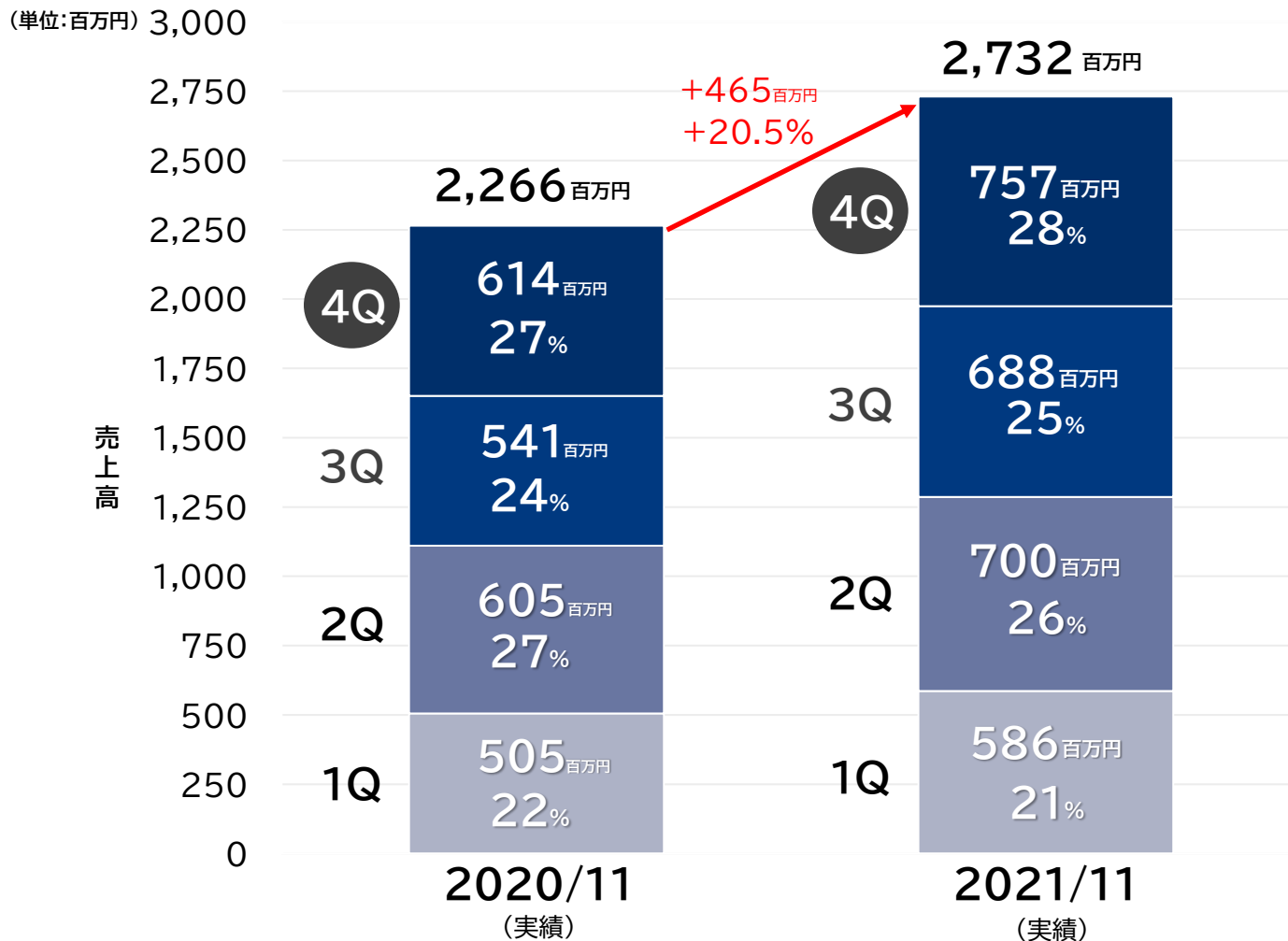
売上比率(取引先別)





## 通期売上高: 27億32百万円

増加額: +465百万円 20.5%増加  
(前期比)



## (全体)主要取引先動向

(2022年1月13日現在)

当社の受注は引き続き好調であり、主要取引先全体としても好調。各社、新型コロナの影響はあったものの今後は回復し、見通しも明るいものとなっている。

### 東芝G

パワー半導体やデータセンター向けのHDDが好調、受注高も前年比大幅増加。当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントも好調。インフラ系とデバイス系を軸とした中長期計画は当社にとって好都合とみています。

### 日立G

市況の回復と、パワーグリッド事業やオートモーティブ関連事業の再編により最高益更新。特に、ITとエネルギーセグメントが急拡大しており、当社業務に関連する設備投資もコロナ禍における抑制傾向から一転、増加が期待されます。

### キオクシアG

四半期ベースで過去最高収益更新中。データセンタSSD、エンタープライズSSD向け出荷が堅調で、総出荷量は継続して増加。メモリ市場の需給は安定、売価も良好。横浜テクノロジーキャンパス内の技術開発新棟の建設が始まるなど、当社にとっての受注拡大が期待されます。

### その他

AIアルゴリズム開発の研究開発の分野において、自動車関連メーカ、精密機械メーカ、通信インフラ企業などの研究投資意欲が旺盛。コロナ禍の中でDX化、省人化の流れが加速しており、当社への引き合いが拡大しています。

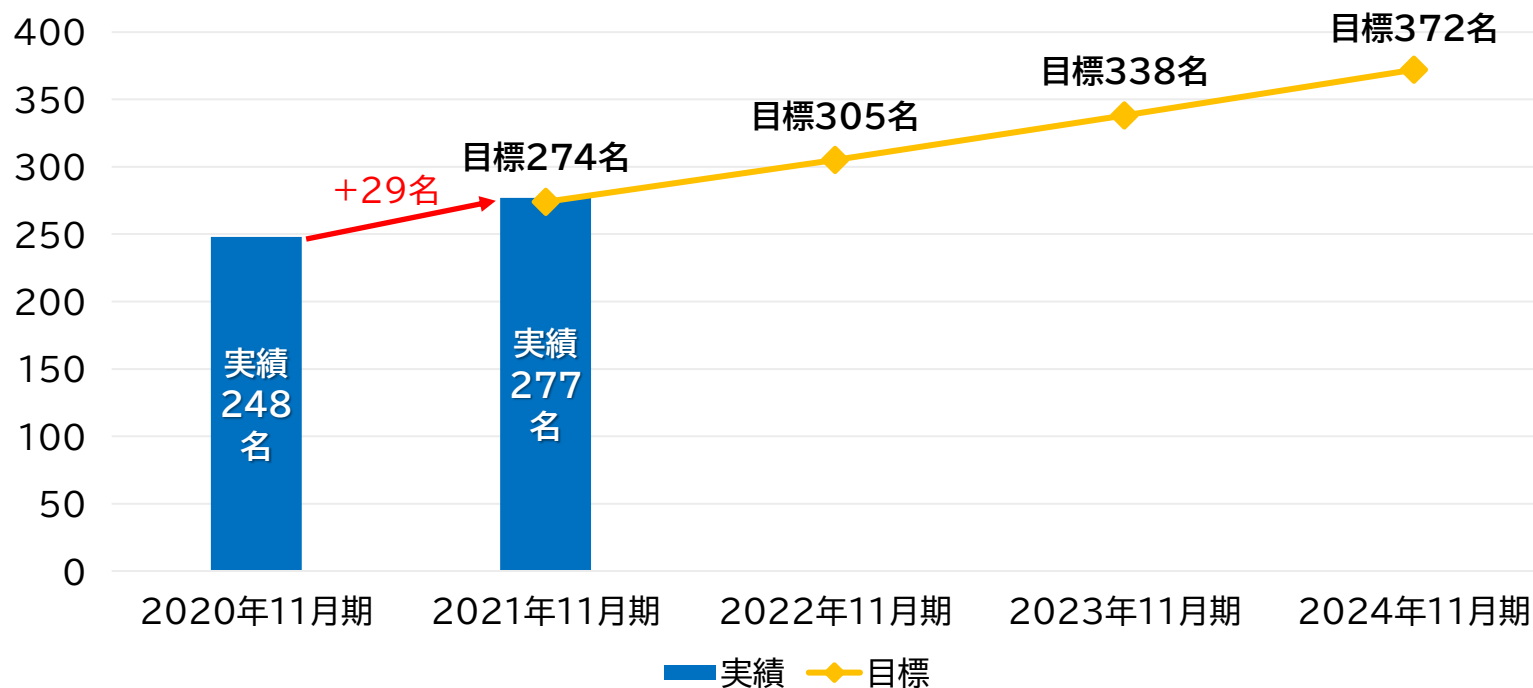
(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

# エンジニアの増員状況( FY2021 )

増員率 **112%** (2021年11月期)

増員方針 全エンジニア数の約10%

(単位:人)



# 損益計算書( FY2021 )

## 損益計算書( FY2021 )

単位:千円	FY2020	FY2021	増減額	増減率
売上高	2,266,994	2,732,771	465,777	20.5%
売上原価	1,590,086	1,947,231	357,144※	22.5%
売上総利益	676,907	785,539	108,632	16.0%
販売費及び一般管理費	372,289	372,587	297※	0.1%
営業利益	304,618	412,952	108,334	35.6%
(営業利益率)	(13.4%)	(15.1%)		
経常利益	304,432	419,328	114,896	37.7%
(経常利益率)	(13.4%)	(15.3%)		
当期純利益	236,257	294,567	58,309	24.7%
(当期純利益率)	(10.4%)	(10.8%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与60,000千円を含んでおります。

## 貸借対照表( FY2021 )

単位:千円	2020/11末	2021/11末	増減
流動資産	1,407,497	1,869,946	462,449
固定資産	95,425	117,500	22,075
資産合計	1,502,923	1,987,447	484,524
流動負債	243,604	440,851	197,246
固定負債	46,966	51,513	4,547
負債合計	290,571	492,364	201,793
株主資本合計	1,212,351	1,495,082	282,731
純資産合計	1,212,351	1,495,082	282,731
負債純資産合計	1,502,923	1,987,447	484,524

# 通期業績予想

---

2022年11月期 通期

## 2022年11月期も好調を継続で**過去最高**収益更新の見通し

(単位:百万円)	2021年11月期 (実績)	2022年11月期 (予想)	増減額	増減率 %
売上高	2,732	<b>3,100</b>	367	13.4
営業利益	412	<b>550</b>	137	33.2
経常利益	419	<b>557</b>	138	32.9
当期純利益	294	<b>391</b>	96	32.7

### 全社

- ✓ 全カテゴリーを通じて引き続き増収増益の見通し
- ✓ 半導体関連の活況は当面継続
- ✓ AI関連は大幅増。新規顧客も増加。
- ✓ 東北大学との共同研究開発費用も吸収

### ソリューション

- ✓ 大手顧客からの重電、インフラ関連システムの受注が堅調
- ✓ 半導体関連顧客からの大型受注が継続見通し

### 半導体

- ✓ 主要顧客である半導体メーカーの工場棟増設に伴うエンジニア派遣増

### 先進技術 ソリューション

- ✓ AIアルゴリズム研究開発支援サービスや技術論文調査支援などを中心にAI関連の受注が増加
- ✓ 情報インフラ企業、自動車関連メーカー、精密機器メーカー等へのAI開発支援が大幅増加
- ✓ 新規取引先の増加も寄与

# 株主還元

---



## 2022年11月期の総還元性向は最大70.5%を予想しています

### 配当の基本方針

当社は、将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させることを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2021年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり8円00銭(6円75銭から増配)(※1)を予定しております。

また、2022年11月期の配当につきましては、前年比実質1円増配の1株当たり5円00銭(※1)を予定しております。

これに加え、2022年11月期中に自己株式の取得を行います。(最大2億5千万円)

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	総還元性向(※2)	自己資本利益率 (ROE)
2021年11月期 (実績)	8円00銭(※1)	10.4%	21.8%
2022年11月期 (予想)	5円00銭(※1)	70.5%	25.1%

(※1) 2020年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行い、2021年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

(※2) 2022年11月期は、自己株式を取得枠上限まで取得したと仮定した場合の値です。

## お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営管理部

Email / [pr@tecsvc.co.jp](mailto:pr@tecsvc.co.jp)

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。